

## 「一枚のシート」ディズニーランドで本当にあった心温まる話

参考著書「最後のパレード」中村克

### 一枚のシート

カウントダウンの日のことです。

パレードを待っているとき、学生っぽい女の子二人がそわそわしているのに気づきました。悪天候で地面がぬれているにもかかわらず、レジャーシートを持っていない様子です。小雨が降る中、しゃがんだ状態のまま、あと1時間は待たなければいけません。

寒さを予想していた私たちは、シートを数枚持ってきていました。

だから重ねて使っていたうちの1枚を引き抜き、彼女たちによかったらどうぞと声をかけたのです。

すると彼女たちの表情がぱあっと明るくなって「ありがとうございます！」「良かった！助かります！」と何度も何度も感謝されました。

なんでもないことなのに、私の方が温かい気持ちになれたような気がします。

数時間後、パレードが終わって、彼女たちから丁寧にたたまれたシートを受け取ったとき、一緒に何か別なものが差し出されました。

「あの...何も持っていないくて。買ったものしかないんですけど、どうしてもお礼をしたいので、どうか受け取って下さい」

それはプーさんの携帯ストラップでした。

きっと自分へのおみやげだったんでしょう。

そんなつもりはなかったのでお気持ちだけと遠慮したのですが、「すごく助かったんです。本当にうれしかったです」と笑顔で言われて、思わず受け取ってしまいました。

素敵な思い出だったので、その携帯ストラップはまだ使わずにとってあります。

時々ながめて、その時のことを思い出し、心を温かくしています。

そしてそれ以来、パークへ行く時には必ず1枚余分にシートを持っていくようになりました。

たった1枚のシートのお陰で、いろんな人たちとの出逢いがあります。

とても素直に「ありがとうございます」「どういたしまして」という気持ちのいい言葉が交わされる幸せを感じています。

ディズニーランドに一步足を踏み入れたとたん、ふだんよりも人に対して優しい気持ちになれる。多くの方がそうおっしゃってくださいます。

じつは入口にいるキャストがゲスト一人一人に魔法をかけているのです。

“目を見て・ニッコリ・こんにちは”

たったそれだけの、簡単な魔法です。

その魔法が、誰もが持っている純真無垢なやさしい気持ちを呼び覚まします。

そしてそのやさしい気持ちがふれあう場所がディズニーランドなのです。

**「最後のパレード」ディズニーランドで本当にあった心温まる話。**

**この本を読んで、何度も涙しました。**

**人間は感動を求めているんだな~とつくづく感じます。**

**人は人によって優しくも素晴らしくもなれるのですね。**

**良い環境をいかに創り出すかは自分たち次第となる訳ですが、意識してそう行動しているかどうかが一番大切なことだと思います。**

**これからは、「良い場を創る！」と意識して、日々行動することとしたいですね。**

**自分に今、出きることは何か？どうすれば悦んでもらえるか？**

**気づく感性、センスを磨きたいですね。**